

き材料として、イソップ物語の斷片一葉とが收められてある。獨逸に齎された摩尼教關係の文書は、此の外には難解の天文曆法に關した二葉と、僅少の小斷片とが存するのみである。と記されて居るから、一先づ之で終を告げたものと見てもよい譯である。多くは小斷片の事でもあり、譯述については非常に骨の折れたことと思ふ。著者は此の譯文は意味を探るだけの最初の試みであるが、然も多年繰り返して努力して見ても、知り得る所は大して進まないから此等の文書の重要な性質上からも、之を同學の士に提供して研究を共にするのが義務であると、謙讓して述べて居る。従つて小斷片に至つては、或は音譯のみを掲げて義譯の施してないものもあるが、それについては、此等の小斷片に記さるゝ所が、殆んど纏つた意味を爲さぬものもあり、ひどく破れた小斷片に不明の語が出て來て、解釋するに苦しむ爲だからとも斷つてある。かかる斷片を兎も角も讀みこなして行くことの苦心は、かゝる事業に従事したものゝみの知り得る處であつて、自分は先づ此の點に於て氏の努力に對して滿腔の敬意と同情とを捧げたい。以下少しく立ち入つて内容の紹介に及ぶことにする。

書中收むる所の文書の種類は總べて四十種、文字は文書によつて所謂ウィグル文字とマニ文字との兩種が用ゐられ、用語は古代トルコ語である。その中前に記した基督教經典とイソップ物語の兩斷片とを除けば、みな摩尼教に關係するものとして扱はれたものである。内容は斷片であるが爲に詳しくは分らないものが多いが、卷頭の *Inhaltsverzeichnis* に簡單に示されてある如く、摩尼教の神祇を擧げたもの、世界の創成を論じたもの、教律に關するもの、讚歌、法談、諸種の奥書、その他細小の斷片中には、史上注意されて居る事柄や、名稱に關する言葉の現はれ